

# 下野市立緑小学校

## 1 学校課題

共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成  
～「対話」を軸とした学習を通して「聴いて考える力」を養い、思いや考えを深める指導の工夫～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

本校では、これまでの学校課題の主題を「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」とし、「学びの深まりを実感できる授業」を目指し、継続して研究に取り組んできた。

これまで、各学力調査等において、どの学年も比較的高い正答率を示したことや、質問調査からは、一人一人の学習意欲の高まりが見取れることなどから、児童の学力向上に一定の成果が見られたと考える。

また、前年度の研究を通して、児童同士がお互いに双方向での対話活動を意識して行えるようになってきており「聴き合う力」も育ってきている。しかし、「聴き合ったこと」をもとに、自分の考えを再構築することは十分でなく、対話活動をもとに、どのようにして自分の考えを深めることにつなげていくかが課題として残った。そこで、今年度は、対話活動の後に自分自身の考えを整理する時間を確保することにより、考えや理解を深めることができるようにしたいと考えた。そして、研究主題の「共に学び合い、高め合い、認め合う児童」の姿を、「対話」を軸とした国語科における「主体的・対話的で深い学びのある学習」の授業を実現する中で育成していきたいと考えた。

### (2) 研究の仮説

国語科の学習を中心に、形態等を工夫してペアでの対話活動を率先して取り入れることで、自分の考えを再構築し、思いや考えを深める児童を育成することにつながるであろう。

## 3 研究内容

### (1) 「学級力」向上と学びに向かう学習集団作り

今年度も、全学級で「学級力アンケート」を年2回実施し、その結果を可視化したグラフをもとに、学級の実態について話し合いを行った。学級の良いところを再確認し、さらに伸ばしていくという肯定的な視点から話し合うことにより、その後の学級の長所を伸ばしていく取組につながった。




### (2) 国語科における授業研究・開発

双方向での対話を成立させ、自分の考えを再構築させるための「聴いて考える力」を国語科の諸活動を通して育成することに取り組んだ。具体的な手立てとして、①環境・形態を工夫する、②良い対話のモデルを提示する、③つなぎ言葉・会話末の相手意識のある言葉を価値付ける、④話したい気持ちを高める、⑤学級の良好な人間関係を作る、の5点を考えた。

### (3) 「聴いて考える力」を鍛えるための常時活動

学習課題に対して、「自分の考えを持つ→考えを伝え合う・聴き合う→自分の考えを深める」という学習活動を継続的に行った。特に、今年度は、対話活動の後に自分の考えを再構築する時間を確実に確保することにより、学習課題について理解や思考の深まりにつなげられるようにした。また、計画的に単元計画を作成し児童と共有することで、児童自身が学習への見通しをもち、さらに効果的な場面で対話活動を設定することにより、学習課題への意欲の高まりや思考の深まりにつなげられるようにした。

(4) 国語科の研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
7/4	5年 講師による 師範授業	「みんなが使いやすいデザイン」	<p>学習課題 「いろいろなユニバーサルデザインにふれて、学習の見通しをもとう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のイラストを基に、ユニバーサルデザインについて知っていることや気になることを伝え合う。</li> <li>・伝え合いの際には、1つの資料を二人で共有し、同じものを見ながら話し合う。</li> <li>・学習計画シートは、児童の調査報告文作成の進度によって、自分で考えられるよう、幅をもたせる。</li> </ul> 
9/29	2年	「どうぶつ園のじゅうい」	<p>学習課題 「どうぶつ園のじゅういさんの「いちばんすごい！」をきめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を「「おしごとしょうかいシート」の作成」とし、モデルを提示する。「どうぶつ園のじゅうい」と各自並行読書してきた職業で作る。</li> <li>・全文シートを活用し、文章全体を俯瞰して読む。</li> <li>・全文シートを黒板に掲示し、自分の考えをネームプレートを使って可視化する。その可視化された友達の考えを基に、対話したい友達を自分で決めさせる。</li> </ul> 
11/19	6年	「三年とうげ」	<p>学習課題 「『三年とうげ』のおもしろいところを伝え合おう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を「2年生に民話を紹介するためのリーフレット作り」とし、モデルを提示する。「三年とうげ」と並行読書してきた民話で作る。</li> <li>・2人で横並びに座り、全文シートを中央に置いて、ペア学習をする。指を指してどの叙述について話しているか明確にさせる。</li> <li>・話合いのモデル動画を作成する。</li> </ul> 

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ①学習計画シートや全文シート、ネームプレートの活用、言語活動のモデル等によって、児童が単元全体の見通しをもつことができ、児童の「対話したい」という気持ちを高められた。
- ②対話したい児童を自分で選んで、机を横並びに座り、資料は中央に置いた。指を指してどの叙述について話しているか明確にさせることで充実したペア学習となった。
- ③話合いのモデル動画によって、対話の仕方が明確になった。

### (2) 研究の課題

- ①対話の際に、友達の考えを必死に写す様子が見られ、対話している時間が短かった。より対話が膨らむための手立てを構築したい。
- ②対話のために、自分の考えをある程度書かせてからのペア学習としたが、どの程度書かせるべきかが難しいため、今後の研究で深めていきたい。
- ③対話の際に、ペアの数が多いので、教師がどのように児童に関わって授業を進めるか、話合いの様子をどう評価していくかについても、今後の研究で深めていきたい。